

式 辞

伊予の広野に黄金波打ち、芽生え花咲く
今日の佳き日に、伊予市長 武智邦典様、同
窓会長 甘井清久様をはじめ、多数の御来賓
の皆様の御臨席を賜り、令和七年度愛媛県立
伊予農業高等学校入学式を挙行できますこと
を、心から感謝申し上げます。

ただいま入学を許可いたしました二百十
六名の新入生の皆さん、入学おめでとうござ
います。皆さんの入学を、在校生・教職員一
同、心より祝福いたします。

本校は、大正七年に伊予郡立実業学校と
して開校されて以来、地域の皆様方の熱い思

いに支えられ、今年で創立百七年目を迎える
愛媛県内屈指の農業高校です。今日から皆さ
んは、その一員として新たな学校生活をス
タートさせますが、これから始まる高校生活
で二つのことをお願いしたいと思います。

まず一つ目は、農業の専門分野が学べる
伊予農業高校で、「将来の夢を掲げ、努力し
てほしい」ということです。秋田県の篤農家
であり、明治から大正にかけての農業指導者
であった石川理紀之助は、「井戸を掘るなら、
水の湧くまで掘れ」という名言を残し、努力
の大切さを教えてくれています。井戸を掘る
作業は、すぐに水が出るわけではなく、根気
強く続ける必要があります。しかし目標を達
成するためには、努力を続けることで、必ず

成果が得られるのです。生徒の皆さんも将来の夢を掲げ、日々自分を磨き、夢を実現できるように努力してほしいと思います。

二つ目は「感謝する心を持ち続けてほしい」ということです。皆さんはこれまで、家族や友人、先生や地域の方など、多くの人々の支えによって、今日までの道を歩んできたことと思います。その感謝の気持ちをこれまでもお世話になった方々に「ありがとう」という言葉で伝えてください。人に感謝できる人ほど自分を高め、さらには周囲からの多くの信頼を得ることができます。入学後も、この感謝の気持ちを忘れないでください。

最後になりましたが、保護者の皆様には、無事今日の日を迎えられましたこと、心から

お慶び申し上げます。私ども教職員一同、大切なお子様をお預かりします以上は、本校に入学して本当によかったと思つて卒業していただけるよう、力の限り教育に当たりたいと考えておりますので、どうか、家庭と学校が車の両輪となつてお子様の成長を支えることができますよう、ここに改めて本校の教育活動に対する御理解と御支援をお願い申し上げます、式辞といたします。

令和七年四月八日

愛媛県立伊予農業高等学校長 永井伊秀